

「知れば動くまちづくり」へ ～下妻市協働のまちづくり市民会議の提言～

「下妻市協働のまちづくり市民会議」(塙正明会長)は平成27年11月25日、「協働のまちづくり市民会議活動報告書 ～知れば動くまちづくり～」をとりまとめ、稲葉市長に提出しました。

同市民会議は平成25年10月に発足以来、委員22人が2年間にわたり、自ら身近な地域の課題について話し合い、解決に向けたアイデアを実践してきました。「砂沼周辺地区のまちづくり」「地域ポイント制度の導入」等についての意見交換や検討をはじめ、下妻市社会福祉協議会が運営する「コミュニティカフェ・ぶらっとほーむ」の視察を含め全26回の会議を重ねてきました。

その中で、人は「知れば動く」ことを学び、実践的な協働の取り組みとして、「地域マップ」を作成したほか、フェイスブックページ「しもつま情報ステーション」を設置し、下妻の情報発信を継続しています。

今回の報告書提出にあたり、塙会長は「地域のことを知らない人に、どう知らせるかが問題解決の糸口になると思う。下妻市に関わる全ての人が、下妻市の良いところを積極的に探し、感じ、発信してもらいたい」とあいさつ。人は「知れば動く」ことの学びから、「地域活動の担い手拡大」と「コミュニティのつながりづくり」のための情



稲葉市長に活動報告書を提出する委員の皆さん

報発信が重要であると提言しました。

まちづくりは、市民一人一人が主役です。市では提言の内容を市政に反映し、市民の皆さんが積極的に行政運営や住民自治に関わることができるよう、協働の取り組みを進めていきます。

フェイスブックページ「しもつま情報ステーション」はこちらから <https://www.facebook.com/shimotsuma.joho.station>

広域交通ネットワークの形成

公共交通網の広域連携強化へ 茨城県南西地域の4市で検討会議設立

下妻市、つくば市、桜川市、筑西市の茨城県南西地域の4市は12月24日、人口減少や少子高齢化の進行など



検討会議の設立後に記者会見に応じる稲葉本治・下妻市長(左から、市原健一・つくば市長、稲葉本治・下妻市長、大塚秀喜・桜川市長、須藤茂・筑西市長)＝つくば市役所で

を踏まえ、人の移動を支える公共交通ネットワークの形成に向けて、「公共交通網の広域連携を図る検討会議」を設立しました。

今後、年2回程度の市長が集まる会議のほか、各市の担当者が定期的に意見交換や調査などを行い、県西地域3市からつくばエクスプレス(TX)の駅へのアクセスやコミュニティバスの相互乗り入れなどを検討していきます。

記者会見で稲葉本治・下妻市長は「つくば市を核として交通の流れをよくしてもらい、住民のニーズを取り込んでいきたい」と述べ、座長に就任した市原健一・つくば市長は「民間事業者や県も巻き込んで効率的にバスを運行する手段も考えたい」と検討会議に向けた意気込みを語りました。

有料広告欄

有料広告欄

受賞者紹介

栗野 英武さん (下妻乙・栗山) 栗野さんは、平成21年に保護司に就任し、罪を犯した人の更生援助や地域における犯罪予防活動に貢献、尽力されています。この功績により、平成27年度茨城県更生保護大会において関東地方保護司連盟会長表彰を受賞されました。

岩瀬 和子さん (江) 岩瀬さんは、平成9年に下妻市選挙管理委員会の委員に就任し、平成25年からは同委員会の委員長を務め、今日まで務めており、19年余の永きにわたり民主政治の確立に大きく貢献されています。国民参政125周年、普通選挙90周年および婦人参政70周年にあたり、このたび、その功績が認められ、総務大臣から感謝状が贈られました。

総務大臣感謝状



岩瀬 和子さん (江)

関東・東北豪雨災害

首相に要望「関東・東北豪雨被災地に一層の支援を」

平成27年9月の関東・東北豪雨で被災した鬼怒川・小貝川、利根川沿川の10市町(古河市、結城市、下妻市、常総市、守谷市、筑西市、坂東市、つくばみらい市、八千代町、境町)の首長、議長およびJA関係者は12月7日、首相官邸を訪問し、関係機関による復旧支援活動に謝意を示した上で、安倍晋三首相に要望書を提出して一層の支援を求めました。

常総市の高杉徹市長によると、安倍首相は「国としては今回の災害をしっかり受け止め、できるだけ支援をしたい」と応じたと話しました。



安倍晋三首相(右から7人目)に要望書を手渡す吉原英一・坂東市長(同8人目)と高杉徹・常総市長(同9人目)、稲葉本治・下妻市長(同5人目)＝首相官邸で

道の駅の整備

道の駅しもつま内「下妻食堂・陽陽」がリニューアルオープン

平成27年9月11日にリニューアルオープンした道の駅しもつまの本館に続いて12月23日、「下妻食堂・陽陽」がリニューアルオープンしました。これで、4月から始まった改修工事が完了し、道の駅しもつまが完全稼働となりました。

「下妻食堂・陽陽」は、リニューアル前は農産物直売所だった建屋が、本館のリニューアルに伴い、レストラン(食堂)に入れ替わったもので、店内は白壁で明るく、木のぬ

くもりが感じられるくつろぎの空間になっています。

営業時間は、朝7:00から夜8:00まで。

茨城県銘柄豚コースポーク使用「上コース 豚カツ定食(880円)」、道の駅しもつま製造・福よ来い納豆使用「のり玉納豆定食(500円)」、「しもつまねぎみそラーメン(730円)」など定食や麺類を中心に下妻ならではのメニューがそろっています。



六角形の屋根が目印の「下妻食堂・陽陽」



白壁と木柱を生かした明るい店内